

## 国際学部国際文化学科 中学校一種・高等学校一種(外国語(英語))

### 【教員養成の理念】

国際学部国際文化学科の教員養成の理念は、グローバル化の進む現代社会において、仏教精神・宗教的情操に基づいて自己を確立し、慈しみの心をもって生徒に向き合い、「身近な他者」に寄り添うことの出来る国際人としての教養を身につけ、より良い国際社会を形成する教育者を育成することにある。

本学が建学の理念として掲げる初代学長清沢満之の「開校の辞」では、「我々が信奉する本願他力の宗義に基づきまして、我々において最大事件なる自己の信念の確立の上に、その信仰を他に伝える、すなわち自信教人信の誠を尽くすべき人物を養成するのが、本学の特質であります」と述べられている。この言葉は、人間は生きるために他者を必要とすることを深く理解し、他者と共にどのように生きるべきかという問題に真摯に向き合っており、その成果を他者と分かち合おうとする人物を育成し社会に送り出すという本学の使命を述べたものである。「国際学部国際文化学科」では、文学部国際文化学科の実績を踏まえ、「本務遂行・相互敬愛・人格純真」の三モットーを体現した教員養成の構想を実現する。

### 【理念を実現するための教員養成の構想】

中学校・高等学校教員に必要な教職や教科に関する科目を履修するほかに、本学がめざす教員養成の理念を実現するために関連のある、以下の科目群を配置する。

すなわち、1～2年次には、先述のように、第三代学長佐々木月樵が示した本学の目標のうち、「本務遂行・相互敬愛・人格純真」の三モットーに関して、建学の精神を伝える科目を設け、全学生に対して「宗教的人格の陶冶」を行っている。

こうした全学的カリキュラムに加えて、国際学部では、1年次に多言語・多文化への関心を促す科目を置き、多様な他者との繋がり方を知る。そのうえで、1年次から3年次にかけて英語集中プログラムを提供し、語学力の向上を図る。1年次から4年次にかけて、英語や英語圏の人々の暮らしや文化的背景についての知識を段階的・発展的に深め、批判的思考力をもって英語圏の文化的産物を考察する力を身につけ、英語科の教員として身につけておくべき知識やスキルを修得する。並行して、英語圏に加えてヨーロッパやアジアなど世界の多様な地域文化の学びに触れることで複眼的思考力を培う。2年次には、これまでの学修成果を生かし、地域でのフィールドワークや「実践文化演習 f (カナダ語学研修)」において、国内外の留学生や外国人観光客、現地の人々と交流し、実践的な学修を行うことで語学力の向上に努めるとともに、多様な社会的・文化的な背景をもつ人々との交流を通して自身を見つめ直し、他者に寄り添う力を育む。3年次を中心に、社会科学的科目群によりマクロの視点からグローバル化社会を理解する。

これらの科目を履修することを通して、本学部の目標である、次に挙げる①～⑥の資質

を持つ教員が養成される。

### 【学科として養成したい教員像】

現在外国語教育の充実や道徳教育の充実など、生徒の学力を保証するさまざまな取り組みが全国で行われている。また高等学校での「総合的な探究の時間」の設置など自ら学び、自ら考える力を身に付け、国際化や情報化をはじめ社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成するために教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習の充実化もめざされている。このような教育改革に対応して、本学科でも、高度な資質を有する教員を養成することをめざす。

- ① 仏教精神・宗教的情操に基づいて自己を確立し、どのような状況でも生徒と心から向き合える芯の強さを持ち、多様な他者に寄り添える教員
- ② 英語で授業を行う高い英語運用能力を有し、生徒の国際コミュニケーション力を育てられる教員
- ③ 異文化との出会いは刺激的な「発見」と「学び」に満ちていることを生徒に伝え、生徒の異文化への興味や関心を引き出すことのできる教員
- ④ 英語圏を含む世界の多様な文化に触れ、異文化・自文化理解を通して生徒の幅広い視野と柔軟かつ論理的な思考力を培うことのできる教員
- ⑤ 時代の変化に柔軟に対応し、国際社会の動向を視野に入れた高度な教育活動を行える教員
- ⑥ 自治体や地域レベルでの国際化の問題を積極的に考察する生徒の主体性を育み、仏教精神をもってより良い国際社会を形成できる教員